

院外処方せん疑義照会簡素化プロトコル（初版）

市立野洲病院

処方変更に関わる原則

- ① 疑義照会簡素化を希望する場合、「疑義照会簡素化における合意書」を提出すること。
- ② 先発医薬品において「変更不可」の欄にチェックがあり、かつ保険医署名欄に処方医の署名又は記名・押印がある場合には、処方薬の変更はできない。
- ③ 処方内に医師のコメントがある場合はコメントを優先する（「剤形変更不可」、「規格変更不可」等）。
- ④ 処方変更は、各医薬品の保険適応、適応症及び用法用量を遵守した変更とする。その際、安全性や溶解性、体内動態等を考慮し、利便性が向上する場合にのみ変更できる。
- ⑤ 服用方法・安定性、価格等について、患者に十分な説明を行い、同意を得た上で変更すること。
- ⑥ 麻薬、注射薬については、疑義照会プロトコルの適用としない。

疑義照会簡素化プロトコルに関する問い合わせ窓口

市立野洲病院 医療技術部 薬剤課

受付時間 平日：午前 9 時から午後 5 時

（電話番号：病院代表 077-587-1332）

【目的】

- 形式的な疑義照会をなくすことにより、①保険薬局での患者待ち時間の短縮。②処方医の負担軽減を図る。
③保険薬局薬剤師の服薬指導の充実を図る。

【概略】

薬剤師による疑義照会は、医薬品の適正使用上、薬剤師法に基づく極めて重要な業務であるが、いわゆる形式的な疑義照会も多く、患者・処方医・保険薬局に負担がかかる場合も多い。

そこで市立野洲病院では、平成 22 年 4 月 30 日厚生労働省医政局通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」を踏まえ、プロトコルに基づく薬物治療管理の一環として、調剤上の典型的な変更に伴う疑義照会を減らし、患者への薬学的ケアの充実および処方医の負担軽減を図る目的で、包括的に薬剤師法第 23 条第 2 項に規定する医師の同意が得られたものとして扱い、「院外処方せん疑義照会簡素化プロトコル」の運用を開始する。

【方法】「院外処方せんにおける疑義照会の流れ」を参照（添付－1）

- ① 保険薬局は、当院が開催した「院外処方せん疑義照会簡素化プロトコル」説明会に参加する。
- ② 「院外処方せん疑義照会簡素化プロトコル」説明会への参加を条件に、合意書を締結することができる。
- ③ 保険薬局は、「院外処方せん疑義照会簡素化プロトコル」に基づいて変更した内容について、事後に処方せんの備考欄に「プロトコルに基づいて変更した内容」を記載し、当該薬剤課宛（FAX：077－588－1932）に報告する。

【その他】

- ① 保険薬局がプロトコルに追加・変更希望の項目がある場合は、地域薬剤師会に要望を出し、守山野洲薬剤師会で協議の上、追加が必要な場合は当院に依頼する。守山野洲薬剤師会と当院で検討し必要な場合は追加・変更する（個々の保険薬局の要望はお請けできないので薬剤師会を通してください）。
- ② 後発医薬品の変更、一般名処方より調剤した薬剤名についてはお薬手帳に記載し、FAXによる報告は不要とする。
- ③ 運用開始：令和2年11月16日
- ④ 「薬剤情報提供書（トレーシングレポート）」は、疑義照会用紙ではないので区別をお願いします。
◆当院では、「薬剤情報提供書（トレーシングレポート）」は、**即時性の低い情報**で、「医師への提供が望ましい」と判断された内容や、患者からの聞き取った服薬アドヒアランス状況、軽微な副作用等の情報提供をいただき、その情報は薬剤課で集約し処方医へ情報伝達を行い、情報共有いたします。また、当院薬剤課から退院時等に必要に応じて薬剤管理サマリーやお薬手帳を用いて情報提供をいたします。

【院外処方せん疑義照会簡素化プロトコル】

① 成分が同一の銘柄変更

- ・先発医薬品同士、後発医薬品から先発医薬品も可
- ・院外処方せんの後発変更不可欄にチェックがあれば不可
- ・必ず患者へ説明（変更理由、価格）後、同意を得て変更のこと

例：アムロジピン OD錠「トワ」5mg → ルバスク OD錠 5mg
→ アムロジン OD錠 5mg

② 剤形の変更（安定性、利便性向上の為の変更に限る）

- ・用法・用量が変わらない場合のみ可
- ・抗悪性腫瘍剤（ステロイドを含む）は不可
- ・安定性、溶解性、体内動態、服薬状況を考慮のこと
- ・軟膏剤、クリーム剤等は不可
（軟膏剤 → クリーム剤、クリーム剤 → 軟膏剤は不可、疑義照会のこと）
- ・必ず患者へ説明（服用方法、価格）後、同意を得て変更のこと

例：アムロジピン OD錠 5mg → アムロジピン錠 5mg
ミヤ BM錠 → ミヤ BM細粒

③ 規格が複数ある医薬品の規格変更

- ・安全性、利便性の向上の場合に限る
- ・必ず患者への説明（薬効、安定性、服用方法、価格）後、同意を得て変更のこと

例：5mg錠 1回2錠 → 10mg錠 1回1錠
10mg錠 1回0.5錠 → 5mg錠 1回1錠

④ 軟膏や湿布薬での用量規格の変更

- ・合計処方量が変わらない場合に限る
- ・必ず患者へ説明（変更理由、価格）後、同意を得て変更のこと

例：マイザー軟膏 0.05% 5g 2本 → マイザー軟膏 0.05% 10g 1本
セルタッチパップ 70（6枚入）×7袋 → セルタッチパップ 70（7枚入）×6袋

- ⑤ **服薬状況の理由により処方薬剤を半割、粉碎、混合することあるいはその逆「抗がん剤（ステロイドを含む）は除く」**

- ・安定性データに留意のこと
- ・必ず患者へ説明（服用方法、価格）後、同意を得て変更のこと

例：ワーファリン錠 1mg 2.5錠 → ワーファリン錠 1mg2錠
ワーファリン錠 0.5mg1錠

- ⑥ **「患者希望」あるいは「アドヒアランス不良で一包化による向上が見込まれる」の理由により、一包化調剤を行うこと（抗がん剤及び「一包化しない」とある場合は除く）**

- ・上記以外の理由は、合意範囲外とする
- ・安定性データに留意のこと
- ・必ず患者に服用方法および患者負担額について説明後、同意を得て変更のこと

- ⑦ **残薬調整のための投与日数の短縮**

薬歴上、継続処方されている処方薬に残薬があるため、投与日数を調整（短縮）して調剤する場合

- ・短縮の場合に限る（削除する場合や、日数の延長は不可）
- ・麻薬に関するものは除く
- ・頓服処方除く
- ・外用剤の本数の変更を含む

例：アジルバ錠 20mg 30日分 → 20日分（10日分残薬があるため）
リンデロンVG軟膏 0.12% 3本 → 2本（1本残薬があるため）

※著しい服薬アドヒアランス低下が認められる場合などは残薬が生じた理由についてトレーシングレポートを用いて情報提供をお願いします。

- ⑧ **外用剤の用法（適用回数、適用部位、適用タイミング等）が口頭で指示されている場合（薬歴上、あるいは患者面談上、用法が明確な場合を含む）の用法追記**

例：モーラステープ L40mg 3袋 1日1回 1回1枚 → 1日1回 1回1枚 腰

- ⑨ **ビスホスホネート製剤等の「週1回」、「月1回」製剤が、連日投与のほかの処方薬と同一の日数で処方されている場合の処方日数適正化（薬歴や患者面談の上、明らかな処方間違いである場合）**

例：アレンドロン酸錠 35mg（週1回製剤）1錠分1 起床時 14日分 → 2日分

- ⑩ 「1 日おきに服用」と指示された処方薬が、連日投与のほかの薬剤と同一の日数で処方されている場合の処方日数の適正化（薬歴や患者面談の上、明らかな処方間違いである場合）

例：フロセミド錠 20mg 1 錠 分 1 朝食後 隔日投与 30 日分 → 15 日分

- ⑪ 医師了解のもとで処方されている漢方薬の「食後」処方（患者面談の上、食後投与が妥当と判断された場合）

例：大建中湯 3 包 毎食後

- ⑫ 「食後」・「食前」の処方で、添付文書上、食直後・食直前と記載されているものの変更

例：ミグリトール錠 50mg 3 錠/毎食前 → 3 錠/毎食直前

院外処方せんにおける疑義照会の流れ

